

家族って、ありがたい

熊田 結良くまた ゆりら

「えっ、うそだろ。まさかの悲げき。」

夏休みが始まって一週間がたったころ、二年ぶりに高熱を出して、ねこんでしまい、大事な水泳記録会をきけんしてしまいました。ぼくは、がっかりしながら家で休んでいると、そこにいとこ達が遊びに来ました。

「痛いっ、小指が動かない。」

家の中を走り回っていた三才のいとこに、思い切り、右足の小指をふまれたのです。病院へ行き、レントゲンをとったら、まさかの骨折でした。頭の中が真っ白になり、くやしくてくやしなくて、泣きました。

「おれの夏休みは、終わった。」

一週間後には、大事な水泳の合宿をひかえていたし、大会にそなえて、毎日こつこつと一生けん命に練習してきたのが、いっしゅんで崩れたのです。全治一ヶ月間、水泳も、思い切り体を動かすことも出来なくなり、くやしさでいっぱいでした。ぼくは、色々な思いがこみあげて、泣いてしまう日が続きました。そんなぼくに、お母さんは、

「だれのせいでもないよ。これは、神様が与えてくれた試練なんじゃないかな。毎日、一生けん命、がんばっているから、少し休んだほうが良いんだよ。」

と、やさしくはげましてくれました。

松葉づえ生活になり、今までふつうに出来ていた事も、家族の手助けがないと出来なくなっていました。トイレやお風呂など、家族のみんなは色々な事を手伝ってくれ、ありがた

いと心から思いました。

一ヶ月間、大好きな水泳が出来なくなると体がなまってしまい、筋力も落ちてしまうので、ぼくはとてもあせりました。

「手伝うよ、一緒にやろう。」

毎日毎日、けんかをする弟だけど、ストレッチや筋力トレーニングに付き合ってくれて、ぼくの身の回りの事の手伝いをしてくれました。一つ下の弟は、短気なぼくとはちがって、思いやりのあるやさしい心の持ち主です。ぼくは心から、ありがたうと思っています。

ぼくは、骨折して、色々な事を学びました。家族のありがたさ、健康である事の幸せ、思いやりの心、がまんする事を知りました。

夏休みも残りわずか。まだ、ぼくの右足は、治っていません。あせらずにしっかり治して、一日も早く、弟や友達と一緒に泳いだり、走り回ったり、思い切り体を動かしたいです。

「骨折した夏休みなんか、一生のうちで、いっしゅんの出来事だよ。これから、これから。」

おばあちゃんとお母さんが、笑ってはげましてくれた事も、しっかりとぼくの心に残り、前向きに、二学期をスタートしたいと思えました。

「ありがたう。」

ぼくは、家族の分まで、一からこつこつと、気合いを入れて、がんばりたいと思います。